

久美小学び通信

忙中閑あい～春休みにどうでしょうか～

いよいよ今年度も残りあと少しとなりました。年度内は指導要録が、終わったら来年度のことが、といろいろ気になる時期です。ただ、忙中閑あり。時間が作れるなら、先日校長先生のチャットにあった文部科学省のYoutube「特別講座これからの学びをどう深める!?(約60分)を観てみませんか?

個人的には、後半最近言われている「教師は教えなくてもよい、子どもに委ねればとよい」というメッセージの意味がよく分かる内容になっていました。また、今年話題になった単元の中で、子どもが選択する部分、教師が規定する部分をどう捉えるかについても触れられていました。(40分頃)来年度、生活科や総合的な学習の時間だけでなくどの教科においても言えることだと思いますので、観たいところだけでも、お勧めします!

教師の指導性を発揮する

リーディングDXスクール事業 特別講座2025

GIGA環境で変容する 子供の学びの姿



お友達の発表を聞く

みんなで誰かの話を聞くことが なくなるわけではない



今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会 論点整理

今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会 論点整理

令和6年9月18日

4. 多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程
(1) 現行の「個に応じた指導」の記述と充実の在り方
○ 現行の学習指導要領においても、児童生徒の発達の支援の観点から「個に応じた指導」は重要視され、個別学習やグループ別学習など、一定の指導方法の具体例の記載もあるが、令和3年1月26日中央教育審議会答申の趣旨等も踏まえると、学習者自身が主体的に学習を調整していく観点からの記述が不足。
○ 子供が興味・関心や能力・特性等に応じて自ら教材・方法・ペース等を選択できる学習環境を教師が適切にデザインすることなど、学習者が主体的に学ぶ中で自ら学習を調整しつつ資質・能力を身につけることの重要性やその中で**教師が免責すべき指導性**について、具体的に議論し、位置付けを検討すべき。
○ 多様な個性・特性を有する全ての子供に資質・能力を育成する上で子供一人一人を見取り、適切な指導や関わりを行う**教師の指導性**はより精緻かつ高度なものが求められる。時には教師が主導することが重要な場面もある。「教師は教えなくてもいい」「全て子供に委ねればよい」といった誤ったメッセージとして伝わることはないよう、最大限の注意を払うべき。

後半から、田村学先生の話でした。上のシートにおいて、「教師が教えてなくてよいという誤ったメッセージとして伝わることはないように」という中教審の文書が出ていること。下の単元計画において、児童が選択するか教師が規定するかの2つしかない考え方がおかしいことを説明されました。ここがとても分かりやすかったです。

前半はGIGAの話でした。ただ、今までしていた当たり前でしていた児童が話を聞くことや、リアルな体験は変わらず大切で、ICTはその上で有効性に依って使おうという話でした。

■個別に学ぶ前(導入)



■個別に学ぶ場面(展開)

■個別に学んだ後(終末)
獲得した情報(知識)を可視化し俯瞰したり、情報(知識)を交流し整理したりしながら、長めの文字言語で振り返ることで、知識が精緻化する。さらには、変容を自覚する場面を用意し、自らの学びや成長に手応えをつかむ。

授業を3つに分け、終末のふり返りの話も。先日大久保先生の校内研修にもありましたが、やはり大事な事柄だとわかりますね。

単元計画の工夫(例)

■単元計画・学習過程立案の主要な三つの要素
「学習課題(何のために)」「学習対象(何を)」「学習方法(どのように:含時間、場所)」
子供が自由に選択する場面と教師が適切に規定する場面がある。「子供の実態」や「育成を目指す資質・能力」に応じて、どのタイプで単元や学習過程を構成するかを教師は意図的、計画的に設計する。

	Type1	type2	type3	Type4	type5	type6	type7	type8
学習課題	選択	選択	選択	選択	規定	規定	規定	規定
学習対象	選択	選択	規定	規定	選択	選択	規定	規定
学習方法	選択	規定	選択	規定	選択	規定	選択	規定

■学習過程のパターン

■教師は、子供が選択する部分と教師が規定する部分を意識して単元計画や学習過程を構想する。その際、子供の実態や発達、教科や単元の特性、などを視野に入れて精緻に計画することを心がける。

